

## 令和2年度 自己評価結果公表シート

令和3年6月25日 光の園幼稚園

### 1、本園の教育目標

- ・ 生きる力の基礎を養うため、健やかな身体と豊かな心情を育てる
- ・ 「勇気と感動とやさしさと」をスローガンに、お話の世界に遊び、楽しく表現し、輝くような心と感性に満ちた創造力を育む
- ・ 周りのもの・こと・ひととの出会いを大切に、それらとじっくりと向き合い、折り合いをつけながら自分のこととして関係性を作っていく (令和2年度)

### ◎ 取り組みに際して念頭においていること

- ・ 五感を使って自然に親しむ
- ・ お話の世界を楽しむ
- ・ 自分の思いやイメージを自由に表現する素地を作る
- ・ 人とのかかわりを大切にして人への信頼感をもつ
- ・ 子どもたちの思いやつぶやきを受け取り保育に活かす

### 2、令和2年度重点的に取り組む目標や計画

- ①興味を持ったものごとに様々な方法で関わろうとする
- ②相手の思いにも気づき、受け入れようとしながらものごとを進める楽しさを知る
- ③園が子どもの成長に大切と考えていることの保護者との共有方法を模索する

### 3、評価項目および取組状況

評価項目	取り組み状況
①興味を持ったものごとに様々な方法で関わろうとする	新型コロナウイルス感染症の影響により分散登園を初めて経験し、6月から園生活がスタートした。しかし、分散登園という比較的ゆったりとした雰囲気の中で新しいクラスでの生活をスタートすることができ、子どもたちは新しい環境に慣れるのも早かったように感じている。その分、周りのことに目を向けることができ、行事も例年ほど行えなかったのでどんどんやってみたいことに挑戦する時間が取れたため積極性が感じられた。保育者も学年やクラスに関係なく、同じ遊びをする子どもたちとその遊びを進める空間や時間を保障することができた。その中で意欲や遊びの発展だけでなく、自然な異年齢の関わりが見られ、その時だけの関わりに終わることなく年度末まで継続して様々な関わる姿が見られたことは次年度にもつなげていきたいことである。

<p>②相手の思いにも気づき、受け入れようとしながらものごとを進める楽しさを知る</p>	<p>上にも書いたように普段の遊びの中で異年齢の関わりが増えることで年上の子どもは年下の子どもに対して自分の気持ちを抑えたり、根気強く待ったりする姿が見られた。また、年下の子どもは年上の子どもの遊びを見てやってみることで大いに刺激を受け、憧れの気持ちを持ち、挑戦心や継続して物事に取り組む姿勢を学んでいた。一方で同年齢での関わりの中では強引に物事を進めようとする姿や自分本位に遊びを進めようとする姿も見られ、保育者はそのたびに子ども同士の話し合いの場を持ったり、クラスでも考える場を設定したりしながら見守っていた。自分の思いを主張できることはよいところでもあるので今後もバランスを取りながら保育者間での共通理解のもと配慮していきたい。</p>
<p>③園が子どもの成長に大切と考えていることの保護者との共有方法を模索する</p>	<p>コロナ禍にあって子どもの育ちを見ていただける機会としての行事の持ち方を変えざるをえなかったり子ども主体に変えていったりすることが多かった。こちらからの説明が不十分で保護者に混乱を招いてしまったこともあり、丁寧な説明の重要性を再認識した。発信の仕方については、今取り組んでいることをその時々で発信するようにしたところ、感染症の拡大防止の観点から育ちを直接見ていただく機会は減ってしまったが、保育者主導ではなく、子どもが自ら取り組む姿やその中での子どもの学びについてご理解いただいた部分も多くなり保育者も手ごたえを感じているところである。今後は発信の内容や頻度についてもさらに追究していきたい。</p>

#### 4、2019年度の目標や計画の総合的な評価

今年度は異例のことが多かったため、かえって普段の生活、活動、行事において子どものどのような育ちが見られるのかを教員間で話し合う機会を持つことができた。こちらが意図的にねらった育ちと共に思わぬところで育ちが見られたこととがあり、今後の保育や保育計画に入れていきたいと考えている。

子どもたちは自由遊びの時間が増えた分、遊びや経験の偏りがあったり、気持ちの高ぶりを抑えにくい場面が多くなったり、便利なものやきれいに整えられたものに目が行きがちになったりしているようにも感じられる。一人ひとりの遊びの姿を捉え、育ちの見通しを持ちながら前述の点などこれまでとはまた違った視点から子どもの育ちを見ていく必要も感じる。

一方、保護者への発信については今も方法を模索しているところであるが、子どもの育ちを意識し、タイムリーに伝える方法をさらに追究していきたいと考えている。

## 5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
①子ども一人ひとり課題となることは異なるが、目的をもって継続的に遊んでいるか、生活面が乱雑になっていないか、一からものを作り出す面白さを感じているか、といった視点でも子どもの育ちの一面として捉えていきたい	例年の活動や行事を見直すことで自由遊びの時間を長く取ることができてきている。その分、様々な時間の過ごし方をしている子ども一人ひとりの遊び方やその中での学び・育ちを見取ることが難しくなっている。ただ何となく時間を過ごしていないか、友だちと過ごす中で必要となるルールに気づき守ろうとする気持ちが育っているか、今の世の中の便利さを受け取りながらも一方では廃材や素朴な素材から創り出す面白さを味わう機会も作りたい。
②子どもの育ちに本当に必要な遊び・活動・行事のあり方を目の前の子どもの姿から考える	普段の生活の中で育っていることや反対に流れてしまっていることが自覚できるような教員間の話し合いの場もさらに作っていきたい。
③保護者と子どもの育ちについて共感できる発信方法を考える	目に見えにくい子どもの育ちについて写真を使ってHPなどで発信し、保護者からの声も聞きながらよりわかりやすい方法を模索する

## 6、学校関係者の評価

特に指摘すべき点はなく、妥当であると認められる。